

国立国語研究所学術情報リポジトリ

言語生活研究覚え書き： 言語生活研究における個人と集団・社会の問題

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡辺, 友左, WATANABE, Tomosuke メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001745

言語生活研究覚え書き

——言語生活研究における個人と集団・社会の問題——

渡 辺 友 左

(一) 主婦の言語生活に関する一つの調査

国立国語研究所の『国民各層の言語生活の実態調査』のための委員会は、昭和38年度に、島根県松江市で、市民各層の言語生活に関するいくつかの調査を実施した。これらの調査は、かいつまんでいうと、松江市民の各層がその所属する階層の違いに応じて、どのように異質の、または同質の言語生活・言語行動をしているか、その実態を明らかにするということに、その主たるねらいがあった。そして、これらいくつかの調査の中に、松江市内の中学校・高等学校に通っている生徒を子どもにもつ母親で、しかもいわゆる直系家族の主婦である婦人だけに実施した面接調査と、この調査を補充するために、松江市内のある婦人学級(注1)を対象に行なった集合調査とがあった。

注1 松江市教育委員会社会教育課持田婦人学級

これらの二つの調査も、異なった職業層に属する家族（専農家族と俸給生活者家族の主婦）が、その異なった職業層に属する直系家族の主婦であるという条件のもとで、どのように異なった言語生活をしているか、その実態を知ることに大きなねらいがあった。

注2 実際には、これら二つの職業層の主婦のほかに、商家の主婦12名についても調査している。しかし、ここでは紙幅の都合で、これまで触れるることはできない。

主たる調査項目は、次の四つである。

1. 読む・書く・聞く・見る生活の実態。
2. 夫・しゅうと・しゅうとめとのコミュニケーションと、その意識の実態。
3. 近隣社会でのフォーマルな言語生活場面への参加と、その意識の実態。
4. これら言語生活の背景にある実生活面の実態。

面接調査と集合調査の被調査者は、第1表に示すとおりである。

このうち、面接調査の被調査者は、次のような手続きによって得た。松江市立第1・第2・第3・第4の各中学校、それに島根大学付属中学校の、2年生あわ

せて9クラス、同じく島根県立松江南高等学校、同松江商業高等学校、同松江工業高等学校の2年生あわせて5クラス、つまり中高計14クラス、683名の生徒に調査票を配り、その家族の構成員と職業について記入を求めた。この調査票にもとづいて、その生徒が自分の兄弟・父母、それに祖父母の双方、またはいずれかと現にいっしょに生活している家族、いわゆる直系家族のみをぬき出した。全体で175。これをさらに職業によって層分けして得たのが、上に掲げた数の被調査者である。

面接調査に当たったのは、わたくしのほか、研究所の上記委員会の林大・斎賀秀夫・林四郎・石綿敏雄の4名である。集合調査は、松江市教育委員会社会教育課のお世話によって、前記婦入学級でやらせていただいた。調査には、斎賀とわたくしの両名が当たった。なお、この調査の企画や調査結果の整理などには、主としてわたくしが当たった。

次に、これら被調査者の平均年齢と学歴構成を第2表・第3表に示す。

第2表

	専農	俸給生活者
面接調査	40.3歳	41.8
集合調査	37.5	34.5

第3表

	面接調査		集合調査		計	
	専農	俸給生活者	専農	俸給生活者	専農	俸給生活者
義務教育卒	70.8%	30.0	62.8	33.3	66.2	30.3
旧高女・新高卒	20.8	56.7	29.8	66.6	26.8	57.6
不明	8.3	13.3	6.4	0	7.0	12.1

面接調査の被調査者についていえば、これらの主婦は、前述したように、中学または高校の2年生を子どもにもっているという条件があるから、二つの層の平均年齢の間には、ほとんど違いがない。集合調査の被調査者のほうも、年齢の上ではそんなに開いていない。

しかし、学歴構成の点では、面接調査、集合調査ともに、二つの職業層の間には大きな開きがある。したがって、以下これら二つの職業層の主婦の言語生活を、その異なった職業層に属する家族の主婦であるという条件のもとで見ていくためには、この学歴という条件を一定にして、見ていくことが必要になる。

最後に、被調査者の属する家族の地域的分布のかたよりのことに触れておく。集合調査の被調査者はさておき、面接調査の二つの職業層の主婦合わせて54名の

第1表

	専業農家	俸給生活者
面接調査	24	30
集合調査	47	3

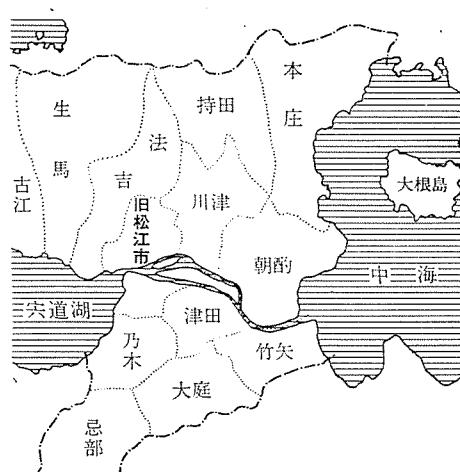
家族は、その抽出の手続きから言って、島根県松江市という行政単位としての都市社会の内部、その中でも松江市立第1・第2・第3・第4・島根大学付属の各中学、それに松江南高校・同商業高校・同工業高校の学区内に分布していることになる。

しかし、これらの家族は、以上の学区内にランダム、または平均的な形で分布しているのではなく、その分布のしかたには、第4表にも示すとおり、大きなかたよりが存在している。

第4表

〔松江市地図〕

	専 農	俸給生活者
旧松江市	0	23
津田地区 (旧津田村)	5	3
乃木地区 (旧乃木村)	4	4
川津地区 (旧川津村)	6	0
生馬地区 (旧生馬村)	3	0
竹矢地区 (旧竹矢村)	5	0
法吉地区 (旧法吉村)	1	0
(面接調査)計	24	30
持田地区 (旧持田村) (集合調査)	47	3
計	71	33



この表によると、二つの職業層の家族のうち、俸給生活者家族は、その大部分が松江市のうちでも旧松江市内に分布し、一部が津田地区（旧津田村）と乃木地区（旧乃木村）に分布している。これに対して、専農家族で旧松江市内に分布するものはゼロ、すべて旧松江市周辺の、松江市に合併される前は村であった地域に分布している。

第5表は、これらの地域の15歳以上全就業人口に対する同農林漁業就業人口の比率を、昭和35年度国勢調査の統計資料「職業（大分類）および15歳以上就業者数」によって示したものである。職業大分類のうち松江市の場合、農林漁業就業人口とは言っても、林業・漁業就業人口はきわめて少ないから、第5表の比率は、15歳以上就業人口に対する同農業就業人口の比率と言っても、さしつかえは

ないだろう。

つまり、松江市の場合、行政的には同じ一つの都市社会内にはあっても、この比率が高いほど、その地域は農村的色彩が強く、逆にこの比率が低いほど、都市的色彩が強いと言うことができる。

第5表をこのように見ると、言うま

でもないことだが、旧松江市は農村的色彩のきわめて薄い社会、つまり都市社会であることがわかる。また、津田・乃木の両地区も、旧松江市以外の他の地区に比べて、比較的農村的色彩の薄いことがわかる。これに対して、これらの地区以外の地区は、かなり農村的色彩が強い。

つまり、面接調査の二つの職業層の家族のうち、俸給生活者家族は、都市社会的色彩の非常に、または比較的強い地域にのみ分布し、専農家族は、農村社会的色彩の非常に、または比較的強い地域にのみ分布していることがわかる。

それでは、以上にのべたように、同じ島根県松江市の市民であり、松江市民の同じ年齢層の中にあり、同じ構成の家族の同じ主婦という立場にありながら、その家族の従事する職業が一方は専農、他方は俸給生活者であるという条件、および家族のおかれている社会が、同じ都市社会の内部にありながら、一方は都市的色彩の強い社会、他方は農村的色彩の強い社会であるという条件の違いによって、これら二つの職業層の主婦の言語生活は、どのように異なる側面をもつのであろうか。

第5表

	15歳以上 就業人口	同農林漁業 就業人口	%
旧松江市	25,232	259 (1.0)	
津田地区 (旧津田村)	2,942	778 (26.4)	
乃木地区 (旧乃木村)	2,982	435 (14.6)	
川津地区 (旧川津村)	1,779	923 (51.9)	
生馬地区 (旧生馬村)	1,167	869 (74.5)	
竹矢地区 (旧竹矢村)	1,367	725 (53.0)	
法吉地区 (旧法吉村)	1,584	530 (33.5)	
持田地区 (旧持田村)	1,330	973 (73.2)	

(二) 調査結果の概要

1. 書く・読む・聞く・見る生活

1.1 書く生活

手紙や葉書を書く・家計簿をつける・市役所等へ出す届や申告書の類を書くなどというのは、おそらくどの家庭のどの主婦にもほぼ共通するはずの言語行動で

あるだろう。また、学校へ出す届の類を書くというのは、学校に通っている子どもをもつ主婦にとって、これまたおそらくその全部にほぼ共通するはずの言語行動の一つであるかも知れない。

そこで、面接調査と集合調査では、第6～11表に示すような質問を試み、それぞれの表にあるような結果を得た。表中の数字は、すべて、左端の選択肢を支持した者の、全体に対する百分比を示す。面接調査と集合調査は、すべてそれぞれ別個に示してある。

第6表

この一か月に奥さんあてに手紙や葉書が何通ぐらい来ましたか。

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計		面 集 計			
0 通	8.3	46.8	33.8	10.0	0	9.1
1～3 通	91.7	38.3	56.3	50.0	66.7	51.5
4, 5 通	0	4.3	2.8	30.0	33.3	30.3
6 通以上	0	8.5	5.6	10.0	0	9.1
無 答	0	2.1	1.4	0	0	0
人 数	24	47	71	30	3	33

第7表

奥さんは、この一か月に個人的な用事で手紙や葉書を何通ぐらいお出しになりましたか。

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計		面 集 計			
0 通	70.8	55.3	60.6	36.7	33.3	36.4
1～3 通	29.2	25.5	26.8	43.3	66.7	45.5
4, 5 通	0	4.3	2.8	6.7	0	6.1
6 通以上	0	2.1	1.4	13.3	0	12.1
無 答	0	12.8	8.5	0	0	0

第8表

お宅に手紙や葉書が来て、返事を書かなければならぬとき、ふつうどなたがお書きになることが多いですか。

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計		面 集 計			
本 人	29.2	14.9	19.7	50.0	33.3	48.5
夫	62.5	59.6	60.6	66.7	33.3	63.6
しゅうと	14.3	18.2	17.2	0	100	10.0
父	50.0	0	33.3	0	0	0
しゅうとめ	6.7	3.6	4.7	0	0	0
母	20.0	0	12.5	0	0	0
子 ど も	8.3	4.3	5.6	3.3	0	3.0
無 答	0	10.6	7.0	0	0	0

第9表

お宅では、学校に出す届のようなものは、ふつうどなたがお書きになることが多いですか。

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計		面 集 計			
本 人	58.3	53.2	54.9	80.0	66.7	78.8
夫	45.8	36.2	39.4	36.7	33.3	36.4
しゅうと	0	4.5	3.4	0	0	0
父	0	0	0	0	0	0
しゅうとめ	0	0	0	0	0	0
母	0	0	0	0	0	0
子 ど も	8.3	0	2.8	6.2	0	6.1
無 答	4.2	6.4	5.6	0	0	0

注 表中の数字は、それぞれの家族員の総数に対する百分比を示す。この種のものは、以下同じ。

第10表

市役所に出す届や税金の申告書などの
ようなものは、ふつうどなたがお書き
になることが多いですか。

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計			面 集 計		
本 人	4.2	6.4	5.6	20.0	33.3	21.2
夫	95.8	78.7	84.5	73.3	66.7	72.7
しゅうと	0	27.3	20.7	22.2	0	20.0
父	25.0	0	16.7	0	0	0
しゅうとめ	0	0	0	0	0	0
母	0	0	0	0	0	0
子 ら も	4.2	0	1.4	0	0	0
無 答	0	0	0	0	0	0

第11表(イ)

お宅では、家計簿をおつけになって
いますか。

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計			面 集 計		
い る	25.0	27.7	26.8	70.0	66.7	69.6
い な い	75.0	40.4	52.1	30.0	0	27.3
つけたり						
・つけな	0	29.8	19.7	0	33.3	3.0
かったり						
無 答	0	2.1	1.4	0	0	0

第11表(ロ)

おつけになるのは、奥さんですか。お
母さんですか。

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計			面 集 計		
本 人	12.5	38.3	29.6	60.0	100	63.6
しゅうとめ	0	7.1	4.7	0	0	0
母	0	0	0	0	0	0
そ の 他	12.5	12.8	12.7	0	0	0
無 答	0	48.9	32.4	10.0	0	9.1

これらの表から、次のようなことがわかる。

- a. 専農家族（以下「専」と略す）の主婦は、俸給生活者家族（以下「俸」と略す）の主婦よりも、手紙・葉書を受けとることが、概して非常に少ない。（第6表）
- b. 専の主婦は、俸の主婦よりも、手紙・葉書を書くことが、非常に少ない。（第7表）
- c. 家あて、つまり家族という集団あてに来た手紙・葉書の返事を書くという集団内の役割行動を主婦がとることは、専の場合、俸に比して非常に少ない。専では、この役割行動をしゅうと・父・しゅうとめ・母などがとることがあるのに対し、俸では、このようなことがない。（第8表）
- d. 学校に出す届のどのようなものを書くことも、専の主婦は、俸の主婦に比してかなり少ない。（第9表）
- e. 市役所に出す届や税金の申告書などのようなものも、専の主婦は、俸の主婦に比して、はるかに少ない。（第10表）
- f. 専の主婦で家計簿をつけているのは、俸の主婦に比して非常に少ない。（第11表(イ)(ロ)）

つまり、専の主婦と俸の主婦の間には、その最も日常的な書く言語生活のいくつかの側面で、大きな断層のあることに気づく。

次に、下に示す第12～17表までの表は、専・俸それぞれのグループの中で、旧制高女・新制高校卒業の学歴をもつ主婦だけについて調べたものである。

第12表

この一か月に奥さんあてに手紙や葉書が何通ぐらい来ましたか。(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計		面 集 計	面 集 計		面 集 計
0 通	20.0	35.7	31.6	0	0	0
1～3 通	80.0	42.9	52.6	47.1	50.0	47.5
4,5 通	0	7.1	5.3	35.3	50.0	36.8
6 通以上	0	14.3	10.5	17.6	0	15.8
無 答	0	0	0	0	0	0
人 数	5	14	19	17	2	19

第13表

奥さんは、この一か月に個人的な用事で手紙や葉書を何通ぐらいお出しになりましたか。(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計		面 集 計	面 集 計		面 集 計
0 通	60.0	50.0	52.6	23.5	0	21.1
1～3 通	40.0	35.7	36.8	47.1	100	52.6
4,5 通	0	7.1	5.3	11.8	0	10.5
6 通以上	0	0	0	17.6	0	15.8
無 答	0	7.1	5.3	0	0	0

第14表

お宅に手紙や葉書が来て、返事を書かなければならぬとき、ふつうどなたがお書きになることが多いですか。
(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計		面 集 計	面 集 計		面 集 計
本 人	60.0	21.4	31.6	76.5	50.0	73.7

第16表

市役所に出す届や税金の申告書などのようなものは、ふつうどなたがお書きになることが多いですか。(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計		面 集 計	面 集 計		面 集 計
本 人	20.0	0	5.3	17.6	50.0	21.1

第17表(イ)

おつけになるのは、どなたですか。

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計		面 集 計	面 集 計		面 集 計
本 人	20.0	0	5.3	76.5	100	78.9

第15表

お宅では、学校に出す届のようなものは、ふつうどなたがお書きになることが多いですか。(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計		面 集 計	面 集 計		面 集 計
本 人	80.0	64.3	68.4	94.1	100	94.7

第17表(ロ)

お宅では、家計簿をおつけになっていますか。(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計		面 集 計	面 集 計		面 集 計
い る	40.0	21.4	26.3	76.5	100	78.9
い な い	60.0	50.0	52.6	23.5	0	21.1
つけたり	0	28.6	21.1	0	0	0
つけなか ったり	0	0	0	0	0	0
無 答	0	0	0	0	0	0
人 数	5	14	19	17	2	19

これらの表から、次のことがわかる。

高女・高校卒という学歴の高い層の間でも、

- a. 専の主婦は、俸の主婦よりも、手紙・葉書を受けとることが少ない。(第12表)
- b. 専の主婦は、俸の主婦よりも、手紙・葉書を書くことが、はるかに少ない。(第13表)
- c. 家あてに来た手紙・葉書の返事を書く、学校や市役所などに出す届や申告書等を書くという家族内の役割行動を専の主婦がとることは、俸の主婦に比して、ほぼ一様に低い。(第14~16表)
- d. 家計簿をつける専の主婦は、俸の場合に比して、はるかに少ない。(第17表(イ)(ロ))

つまり、全体的に見た場合に専と俸の主婦の間に認められた書く言語生活のいくつかの側面での断層は、そのおのおのをさらに学歴別に細かく見ていった場合にも、同じように存在するのである。

1・2 新聞・雑誌などを読む生活

主婦の読む言語生活のうち、その最も日常的なものに関する質問としては、次のようなものを用意し、それぞれ第18表以下に示すような結果を得た。

第18表

奥さんは、新聞をお読みになりますか。

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
読 む	58.3	51.1	53.5	86.7	66.7	84.8
たまに読む	37.5	46.8	43.7	13.3	33.3	15.2
読まない	4.2	2.1	2.8	0	0	0
無 答	0	0	0	0	0	0
人 数	24	47	71	30	3	33

第19表

新聞をお読みになる時間は、一日のうちでどれくらいありますか。

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
10分以内	43.5	21.7	29.0	13.3	0	12.1
20分 ツ	17.4	52.2	40.6	16.7	66.7	21.2
30分 ツ	30.4	21.7	24.6	30.3	33.3	30.3
30分以上	8.7	4.3	5.8	40.0	0	36.4
無 答	0	0	0	0	0	0

第20表

雑誌や週刊誌をお読みになっていますか。

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
読 む	50.0	29.8	36.6	50.0	66.6	51.5
たまに読む	16.7	63.8	47.9	46.7	33.3	45.5
読まない	33.3	6.4	15.5	3.3	0	3.0
無 答	0	0	0	0	0	0

第21表

それは、どなたが買ってこられるのですか。

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
本人	0	21.3	14.1	23.3	33.3	24.2
夫	12.5	12.8	12.7	50.0	66.7	51.5
しゅうと	0	0	0	0	100	10.0
父	0	0	0	0	100	33.3
しゅうとめ	0	0	0	0	0	0
母	0	0	0	0	0	0
子ども	16.7	10.6	12.7	16.7	0	15.2
その他	41.7	46.8	45.1	26.7	0	24.2

第22表

奥さんは、自分の読みたい雑誌や本を、自分でお買いになることがありますか。

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
ある	4.2	21.3	15.5	26.7	33.3	27.3
たまにある	4.2	44.7	31.0	16.7	33.3	18.2
ない	91.7	27.7	49.3	56.7	33.3	54.5
無答	0	6.4	4.2	0	0	0

これらの表から、次のことがわかる。

- a. 専の主婦は、俸の主婦よりもはるかに新聞を読まない。(第18・19表)
- b. 専の主婦は、俸の主婦よりも雑誌や週刊誌などを読まないし、買わない。
(第20~22表)

次に、1・1 の場合と同じく、専・俸とも、高女・高校卒のものだけについてみると第23~27表のようになる。

第23表

奥さんは、新聞をお読みになりますか。
(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
読む	80.0	42.9	52.6	88.2	100	89.5
たまに読む	20.0	50.0	42.1	11.8	0	10.5
読まない	0	7.1	5.3	0	0	0
無答	0	0	0	0	0	0
人數	5	14	19	17	2	9

第24表

新聞をお読みになる時間は、一日のうちで、どれくらいありますか。(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
10分以内	40.0	23.1	27.8	11.8	0	10.5
20分	0	46.2	33.6	11.8	50.0	15.8
30分	60.0	30.8	38.9	23.5	50.0	26.3
30分以上	0	0	0	52.9	0	47.4
無答	0	0	0	0	0	0

第25表

雑誌や週刊誌をお読みになっていますか。(高女・高校卒)

	専 農		俸給生活者			
	面	集 計	面	集 計		
読 む	80.0	28.6	42.1	52.9	100	57.9
たまに読む	0	71.4	52.6	41.2	0	36.8
読まない	20.0	0	5.3	5.9	0	5.3
無 答	0	0	0	0	0	0

第27表

奥さんは、自分の読みたい雑誌や本を自分でお買いになることがありますか。(高女・高校卒)

第26表

それは、どなたが買ってこられるのですか。(高女・高校卒)

	専 農		俸給生活者			
	面	集 計	面	集 計		
本 人	0	7.1	5.3	29.4	50.0	31.6

	専 農		俸給生活者			
	面	集 計	面	集 計		
あ る	0	7.1	5.3	29.4	50.0	31.6
たまにある	0	50.0	36.8	17.6	50.0	21.1
な い	80.0	42.9	52.6	47.1	0	42.1
無 答	20.0	0	5.3	5.9	0	5.3

これらの表から、次のことがわかる。高女・高校卒という層の間でも、

- a. 専の主婦は、俸の主婦よりも、新聞を読まない。(第23・24表)
- b. 専の主婦は、俸の主婦よりも、雑誌や週刊誌などを読まないし、買わない。(第25~27表) (ただし、第25表の面接調査の部分では、この関係が逆になっている。)

つまり、新聞・雑誌・週刊誌などの、最も日常的なマス・コミの印刷媒体を読む生活の上で、専と俸の間に見られた断層は、二つの層を学歴別に細かく見ていっても、なお依然として認めることがあるのである。

1.3 テレビ(ラジオ)を見る(聞く)生活

テレビ(ラジオ)を見る(聞く)ことについては、次のような質問を用意し、それぞれの表に示す結果を得た。

第28表

奥さんは、テレビ(ラジオ)をごらん(お聞き)になりますか。

	専 農		俸給生活者			
	面	集 計	面	集 計		
見る(聞く)	100	93.6	95.7	100	100	100
見 な い (聞 か な い)	0	0	0	0	0	0
無 答	0	6.4	4.3	0	0	0
人 数	24	47	71	30	3	33

第29表

奥さん自身がいつも見る（聞く）ことにしている番組がありますか。

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
あ る	75.0	80.6	78.3	90.0	100	84.8
な い	25.0	2.8	11.7	10.0	33.3	12.1
無 答	0	16.7	10.0	0	33.3	3.0

第30表

テレビ（ラジオ）をごらん（お聞き）になる時間は、どれくらいありますか。

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
30分以内	25.0	2.8	11.7	6.7	33.3	9.1
1時間	25.0	41.7	40.0	13.3	33.3	15.2
2時間	29.2	33.3	31.7	30.3	0	27.3
2時間以上	8.3	19.4	15.0	50.0	33.3	48.5
無 答	0	2.8	1.7	0	0	0

第31表(イ)

ご家族の中で、どなたがいちばん多くテレビ（ラジオ）をごらん（お聞き）になっていますか。

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
本人と答えたもの	0	0	0	26.7	0	24.2

第31表(ロ)

（本人以外の人物と答えた人に）奥さんは、ご家族の中で多いほうですか。少ないほうですか。

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
多いほう	8.3	8.5	8.5	27.3	0	24.0
少ないほう	83.3	53.2	63.4	50.0	66.7	52.0
どちらともいえない	0	17.0	11.3	18.2	33.3	20.0
わからない						
無 答	4.2	21.3	15.5	0	0	0
みんなが同じくらい	4.2	0	1.4	4.5	0	4.0
人 数	24	47	71	22	3	25

これらの表から、次のことがわかる。

- a. 専・俸とも、テレビ（ラジオ）を見ない（聞かない）ものはいない。（第28表）
- b. あるきまつた番組をいつも見ることにしているのは、わずかながら俸の主婦に多い。（第29表）

- c. しかし、テレビ（ラジオ）をどれくらい見る（聞く）かということになると、専と俸の間には大きな断層がある。（第30・31表(イ)(ロ)）

次に、第28表の質問を除き、第29～31表の質問の部分を、高女・高校卒のものについてみると、第32～34表(イ)(ロ)のようになる。

第32表

奥さん自身がいつも見る（聞く）ことにしている番組がありますか。（高女・高校卒）

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計		面 集 計	面 集 計	面 集 計	面 集 計
あ る	100	64.3	73.7	88.2	0	78.9
な い	0	14.3	10.5	11.8	50.0	15.8
無 答	0	21.4	15.8	0	50.0	5.3

第33表

テレビ（ラジオ）をごらん（お聞き）になる時間は、どれくらいありますか。（高女・高校卒）

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計		面 集 計	面 集 計	面 集 計	面 集 計
30分以内	0	0	0	5.9	0	5.3
1時間以内	60.0	50.0	52.6	17.6	50.0	21.1
2時間以内	40.0	35.7	36.8	23.5	0	21.1
2時間以上	0	7.1	5.3	52.9	50.0	52.6
無 答	0	7.1	5.3	0	0	0

第34表(イ)

ご家族の中で、どなたがいちばん多くテレビ（ラジオ）をごらん（お聞き）になっていますか。（高女・高校卒）

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計		面 集 計	面 集 計	面 集 計	面 集 計
本 人	0	0	0	35.3	0	31.6
人 数	5	14	19	17	2	19

第34表(ロ)

（本人以外の人物を答えた人に）奥さんは、ご家族の中で多いほうですか。少ないほうですか。

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計		面 集 計	面 集 計	面 集 計	面 集 計
多 い ほ う	0	7.1	5.3	27.3	0	23.1
少 ない ほ う	100	64.3	73.7	45.5	50.0	46.2
ど ち ら と も い え な い わ か ら な い	0	21.4	15.8	27.3	50.0	30.8
無 答	0	7.1	5.3	0	0	0

これらの表から、次のことがわかる。

- a. あるきまつた番組をいつも見る（聞く）ことにしているのは、専のほうが、俸よりもわずかながら多い。（第32表）
- b. しかし、テレビ（ラジオ）をどれくらい見る（聞く）かということになると、専と俸の間に大きな断層がある。これは専と俸を全体的にみた場合と同じ。（第33・34表(イ)(ロ)）

2. 夫・しゅうと・しゅうとめとのコミュニケーションとその意識

用意した質問項目とその集計結果は、第35～39表のとおり。

第35表

奥さんは、ご主人に対して、お家のことでやご家族のことでこうしてほしい、こうしたほうがよい、こうしてもらっては困るなどと思ったとき、そのことをご主人にはっきりおっしゃるほうですか。

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
はっきり言 うほうだ	87.5	76.6	80.3	96.7	66.7	93.9
あまり言わ ないほうだ	8.3	10.6	9.9	3.3	0	3.0
どちらとも いえない	0	4.3	2.8	0	0	0
意見や希望 をもったこ とがない	0	0	0	0	0	0
無 答 人 数	4.2	8.5	7.0	0	33.3	3.0
	24	47	71	30	3	33

第36表

ご主人のお母さんに対しては、どうですか。(しゅうとめと同居している者について)

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
はっきり言 うほうだ	40.0	35.7	37.2	52.9	0	47.4
あまり言わ ないほうだ	53.3	39.3	44.2	47.1	0	42.1
どちらとも いえない	0	21.4	14.0	0	50.0	5.3
意見や希望 をもったこ とがない	0	0	0	0	0	0
無 答 人 数	6.7	3.6	4.7	0	50.0	5.3
	15	28	43	17	2	19

第37表

ご主人のお父さんに対しては、どうですか。(しゅうとと同居している者について)

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
はっきり言 うほうだ	28.6	18.2	20.7	66.7	0	60.0
あまり言わ ないほうだ	71.4	54.5	58.6	33.3	0	30.0
どちらとも いえない	0	13.6	10.3	0	100	10.0
意見や希望 をもったこ とがない	0	13.6	10.3	0	0	0
無 答 人 数	0	0	0	0	0	0
	7	22	29	9	1	10

第38表

夫婦の間では、いくら仲がよくても、時には意見があわないようなこともあるのではないかと思います。そういうときは、ともかく妻のほうが折れて、夫に従ったほうがよいと思いますか。それとも妻も自分の考えを主張したほうがよいと思いますか。(嫁である主婦だけについて)

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
妻が折れて 夫に従った ほうがよい	47.1	58.1	55.5	28.0	0	25.9
妻も自分 の考え方を 主張した ほうがよい	35.3	25.6	28.3	44.0	50.0	44.4
どちらとも いえない	11.8	14.0	13.3	24.0	0	22.2
無 答 人 数	5.9	2.3	3.3	4.0	50.0	7.4
	17	43	60	25	2	27

第39表

お嫁さんとおしゅうとさんの間では、いくら仲がよくても、たまには意見の合わないこともあります。そういうときは、ともかくお嫁さんのほうが折れて、おしゅうとさんに従つたほうがよいと思いますか。それともお嫁さんも、自分の考えを主張したほうがよいと思いますか。(嫁であり、しゅうと・しゅうとめと同居している主婦だけについて)

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
嫁が折れて しゅうとに 従つたほう がよい	58.8	71.0	66.7	40.0	0	36.4
嫁も自分の 考え方を主張 したほうが よい	29.4	19.4	22.9	40.0	50.0	40.9
どちらとも いえない	0	3.2	2.1	20.0	0	18.2
その 他	5.9	0	2.1	0	0	0
無 答	5.9	6.5	6.2	0	50.0	4.5
人 数	17	31	48	20	2	22

これらの表から、次のことがわかる。

- a. 専の主婦は、俸の主婦よりも、自分の夫・しゅうと・しゅうとめに対し、それぞれ言うべきであるはずのことを言うことが少ない。特に専の主婦は、俸の主婦に比して、しゅうとに対しては言うべきことも極度に押えるらしい。(第35~37表)
- b. また、自分の夫・しゅうと・しゅうとめに対して言うべきであるはずのものを言うべきでないとする意識や態度は、俸の主婦よりも、専の主婦のほうが強くもっている。(第38・39表)

以上のことと、高女・高校卒の者についてみると、第40~44表のようになり、上の a, b に述べたことがらは、この場合にもはっきり認められる。

第40表

奥さんは、ご主人に対して、お家のことやご家族のことで、こうしてほしい、こうしたほうがよい、こうしてもらっては困るなどと思ったとき、そのことをご主人にはっきりおっしゃるほうですか。(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
はっきり言 うほうだ	60.0	71.4	68.4	94.1	100	94.7
あまり言わ ないほうだ	40.0	14.3	21.1	5.9	0	5.3
どちらとも 言えない	0	0	0	0	0	0
意見や希望 をもったこ とがない	0	0	0	0	0	0
無 答	0	14.3	10.5	0	0	0
人 数	5	14	19	17	2	19

第41表

ご主人のお母さんに対する態度は、どうですか。(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
はっきり言うほうだ	25.0	22.2	23.1	40.0	0	36.4
あまり言わないほうだ	50.0	55.6	53.8	50.0	0	45.5
どちらとも言えない	0	22.2	15.4	0	100	9.1
意見や希望をもったことがない	0	0	0	0	0	0
無 答	25.0	0	7.7	10.0	0	9.1
人 数	4	9	13	10	1	11

第43表

夫婦の間では、いくら仲がよくても、時には意見があわないようなこともあります。そういうときは、ともかく妻のほうが折れて、夫に従ったほうがよいと思いますか。それとも妻も自分の考えを主張したほうがよいと思いますか。(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
妻が折れて夫に従ったほうがよい	66.6	28.6	35.3	21.4	0	20.0
妻も自分の考えを主張したほうがよい	33.3	42.9	41.2	50.0	100	53.3
どちらともいえない	0	28.6	23.5	21.4	0	20.0
無 答	0	0	0	7.1	0	6.7
人 数	3	14	17	14	1	15

第42表

ご主人のお父さんに対する態度は、どうですか。(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
はっきり言うほうだ	50.0	12.5	20.0	42.9	0	37.5
あまり言わないほうだ	50.0	75.0	70.0	57.1	0	50.0
どちらとも言えない	0	12.5	10.0	0	100	12.5
意見や希望をもったことがない	0	0	0	0	0	0
無 答	0	0	0	0	0	0
人 数	2	8	10	7	1	8

第44表

お嫁さんとおしゅうとさんの間では、いくら仲がよくても、たまには意見のあわないこともあります。そういうときは、ともかくお嫁さんのほうが折れて、おしゅうとさんに従ったほうがよいと思いますか。それともお嫁さんも自分の考えを主張したほうがよいと思いますか。(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
嫁が折れてしゅうとに従ったほうがよい	66.6	50.0	52.9	28.6	0	26.7
嫁も自分の考えを主張したほうがよい	33.3	21.4	23.5	35.7	100	40.0
どちらともいえない	0	7.1	5.9	21.4	0	20.0
その 他	0	0	0	0	0	0
無 答	0	21.4	17.6	14.3	0	13.3
人 数	3	14	17	14	1	15

3. 近隣社会のフォーマルな言語生活場面への参加

用意した質問項目と、その集計結果は、第45～48表に示すとおりである。

第45表

奥さんは、PTAの集まりに一年に何回ぐらい出られますか。

	専 農		俸給生活者		
	面 集	計	面 集	計	
平均出席回数	3.4	6.5	5.1	6.9	9.5
人 数	24	40	64	30	3 33

第47表(イ)

PTAや町内（部落内）の改まった寄り合いで、話し合いの議題になっていることについて、こうしたほうがよいとか、こうしてはいけないとか、こうしてもらいたいとかいう奥さん自身の意見や希望があった場合、奥さんはそれを皆さんの中ではっきりおしゃったことがありますか。

	専 農		俸給生活者		
	面 集	計	面 集	計	
あ る	25.0	63.8	50.7	56.7	100 60.6
な い	66.7	25.5	39.4	43.3	0 39.4
無 答	8.3	10.6	9.9	0	0 0
人 数	24	47	71	30	3 33

これらの表から、次のことがわかる。

- a. 専の主婦は、概して俸の主婦よりも、PTAの寄り合には出ることが少ない。（第45表）
- b. しかし、専の主婦は、俸の主婦よりも町内・部落内の寄り合いには多く出る。（第46表）
- c. PTAや町内・部落内の寄り合いで、専の主婦は、俸の主婦よりも、発言することが少ない。（第47表(イ)）
- d. 大づかみに言えば、専の主婦は、

第46表

奥さんは、町内（部落内）の寄り合いで一年に何回ぐらい出られますか。

	専 農		俸給生活者		
	面 集	計	面 集	計	
平均出席回数	4.0	14.2	10.6	2.0	15.8 3.6

第47表(ロ)

（「ない」と答えた人に）奥さんは、意見や希望をお持ちになったことがありますか。

	専 農		俸給生活者		
	面 集	計	面 集	計	
あ る	62.5	58.3	60.7	30.8	0 30.8
な い	12.5	41.7	25.0	61.5	0 61.5
無 答	25.0	0	14.3	7.7	0 7.7
人 数	16	12	28	13	0 13

第48表

奥さんは、そういう改まった寄り合いの席では、とやかく文句を言うのは、さしひかえたほうがよいとか、発言するのもなるべくさしひかえたほうが、無難でよいとお考えになりますか。

	専 農		俸給生活者		
	面 集	計	面 集	計	
そう考える	45.8	51.1	49.3	26.7	33.3 27.3
そうは考えない	33.3	36.2	35.2	60.0	66.7 60.6
どちらともいえない	12.5	0	4.2	13.3	0 12.1
無 答	8.2	12.8	11.3	0	0 0
人 数	24	47	71	30	3 33

言うべきものをもっているのに言わないという傾向をもち、俸の主婦は、言うべきものをもっていないから言わないという傾向をもっているということができる。(第47表(回))

e. 専と俸の主婦の言語行動のこのような違いは、改まった寄り合いの席では、とやかく文句を言うのはさしひかえたほうがよいと考えるかどうか、また、発言するのもなるべくさしひかえたほうが無難でよいと考えるかどうかという、これら二つの層の主婦の態度の違いに直接ねぎるものであろう。(第48表)

次に、以上のことと高女・高校卒の者についてみると、第49～52表のようになる。

第51表(イ)

PTAや町内(部落内)の改まった寄り合いなどで、話し合いの議題になっていることについて、こうしたほうがよいとか、こうしてはいけないとか、こうしてもらいたいとかいう奥さん自身の意見や希望があった場合、奥さんは、それを皆さんの中で、はっきりおっしゃったことがありますか。(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計			面 集 計		
あ る	40.0	71.4	63.2	58.8	100	63.2
な い	60.0	7.1	21.1	41.2	0	36.8
無 答	0	21.4	15.8	0	0	0
人 数	5	14	19	17	2	19

第49表

奥さんは、PTAの集りに一年に何回ぐらい出られますか。(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計			面 集 計		
平均出席回数	5.1	7.1	6.3	7.3	9.5	7.4
人 数	5	14	19	17	2	19

第50表

奥さんは、町内(部落内)の寄り合いには一年に何回ぐらい出られますか。(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計			面 集 計		
平均出席回数	4.2	15.2	11.5	1.7	15.0	3.5
人 数	5	14	19	17	2	19

第51表(イ)

(「ない」と答えた人に) 奥さんは、意見や希望をおもちになったことがありますか。(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面 集 計			面 集 計		
あ る	100	100	100	28.6	0	28.6
な い	0	0	0	71.4	0	71.4
無 答	9	0	0	0	0	0
人 数	3	1	4	7	0	7

第52表

奥さんは、そういう改まった寄り合いの席では、とやかく文句をいうのは、さしひかえたほうがよいとか、発言するのもなるべくさしひかえたほうが、無難でよいとお考えになりますか。(高女・高校卒)

	専 農			俸給生活者		
	面	集	計	面	集	計
そう考える	60.0	50.0	52.6	23.5	50.0	26.3
そうは考えない	20.0	21.4	21.1	58.8	50.0	57.9
どちらともいえない	20.0	0	5.3	17.6	0	15.8
無 答 人 数	0	28.6	21.1	0	0	0
	5	14	19	17	2	19

これらの表から、次のことがわかる。すなわち高女・高校卒の学歴をもつている主婦の間でも、

- a. 専の主婦は、俸の主婦よりも P T A の寄り合いに出席することが少ない。
(第49表)
- b. しかし、専の主婦は、俸の主婦よりも町内・部落内の寄り合いにははるかに多く出る。(第50表)
- c. P T A や部落内の寄り合いなどの改まった言語生活の場面で、専の主婦は、俸の主婦よりも発言することが少ない。(第51表(イ))
- d. 専の主婦が発言しないのは、発言すべきことがらをもたないからなのではない。もっていても、発言しようとしてない。俸の主婦は、この逆。(第51表(ロ))
- e. 専の主婦は、改まった寄り合いの席では発言すべきでないという態度や意識を、俸の主婦よりも強くもっている。(第52表)

つまり、前に全体的に見た場合の傾向と、少しも変わっていないのである。

(三) 言語生活研究における個人と集団・社会の問題

以上(一)(二)に述べたことを、ここで要約すると、次のようになる。

二つの職業層の家族の主婦は、同じ島根県松江市の同じ年齢層・同じ学歴層の中にいる市民であり、同じ構成の家族の主婦でありながら、一方が農村的地域社会の専農家族の主婦であり、他方が都市的地域社会の俸給生活者家族の主婦であるという条件の違いによって、その言語生活・言語行動のいくつかの側面で、次にあげるようなはっきりした断層を見せてている。

専の主婦は、俸の主婦に比して、

1. 手紙・葉書を受けとることが少ない。
2. 手紙・葉書を書くことが少ない。
3. 家族という集団全体あてにきた手紙や葉書の返事を書く、学校・市役所などに出す届や申告書の類を書く、家計簿をつけるなどの、集団内での役割行動をとることが少ない。
4. 新聞・雑誌・週刊誌などを読むことが少ない。
5. 自分の読みたい本や雑誌を自分で買うことも少ない。
6. テレビ（ラジオ）を見る（聞く）ことが少ない。俸の主婦との比較において少いばかりでなく、夫・しゅうと・しゅうとめ・父・母・子どもなど、自分の家族の他の成員との比較においても少ない場合が多い。
7. 夫・しゅうと・しゅうとめに対して、言うべきことは言うというはっきりした言語行動をとることが少ない。また、そのような言語行動はとるべきでないという態度や意識を強くもっている。
8. P T Aの寄り合いにはあまり出席しないが、部落内・町内の寄り合いには多く出席する。
9. しかし、P T Aや部落内・町内の寄り合いなど、改まった言語生活の場面で、自分の意見や希望を述べるなどという、積極的な言語行動をとることが少ない。
10. 改まった言語生活の場面で、意見や希望を述べないのは、意見や希望をもたないからではない。意見や希望をもっていても、それを述べないという傾向を強くもっている。
11. 専の主婦の言語行動にみられる、このような傾向は、改まった言語生活の場面では、積極的に発言すべきではないという態度や意識に強くさえられている。

わたしたちの調査は、ほぼ上のような事実を明らかにすることができた。それでは、二つの職業層の主婦の言語生活・言語行動のいくつかの側面で、このような事実が存在するのは、なぜか。このことが次に問題になってくる。

しかし、それには、わたしたちのたてた調査の前提条件から言って、当然、農村的地域社会の専農家族の主婦であるということと、都市的地域社会の俸給生活者家族の主婦であるということが、具体的にどのような違いをもっているのか、の問い合わせに対する回答を準備することからはじめなければならないだろう。

くだいていえば、次の二つの問い合わせに対する回答を準備することである。

1. 同じ直系家族の主婦でありながら、その家族の従事する職業が一方は専農であり、他方は俸給生活者であるという違いが、その主婦を中心とした、家族の集団構造や集団としての性格にどのような違いをもたらすのか。
2. 家族のおかれている地域社会が、一方は農村的・農耕社会であり、他方は都市的・商業社会であるという場合、これら二つの社会の性格や構造は、どのような違いをもち、そして、その違いは、その社会の中における個人のあり方にどのような違いをもたらすことになるのか。

個人の問題は、ここで個人の問題であることを越えて、集団や社会の問題となる。個人の言語生活・言語行動の研究は、ここで、個人の生活や行動の問題をもっぱら集団や社会の観点からとらえようとする社会学（この場合、家族社会学や都市・農村社会学など）や社会心理学と結びついてくる。

人間の言語生活や言語行動の研究や調査には、ある場合には、それを人間の「生活」の一つの問題として、「行動」の一つの問題としてとらえる立場が必要である。そして、ある場合にはその「人間」の生活や行動を、「個人」としての生活や行動のほかに、「集団や社会の成員」としての生活や行動としてとらえる立場も必要になる。

しかし、個人の言語生活・言語行動に関する問題を、もっぱら国語学の未開拓領域の問題（？）としてとらえようとする国語学者の多くは、わたしの勤務する国語研究所の内と外とを問わず、このような問題とその研究には、さしたる理解力も包容力ももっていないように見える。

国語学が「国語」それ自身の体系的な認識という固有の研究領域のほかに、仮にそこに「言語」という語がつくにせよ、「生活」や「行動」というきわめて異質な問題までも、その未開拓領域としてかかえこむことについては、おそらく国語学自身の内部でさえも、問題のあることなのであろうと思うのだが……。国語学の外にあるものとして、わたくしは、いつもこのような疑問をもっている。

（1964・10・25）